

研究・調査報告書

報告書番号 1 1 6	担当 独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Ethanol as a cause of hypersensitivity reactions to alcoholic beverages. アルコール飲料に対して高感受性応答を引き起こす原因としてのエタノール	
執筆者	
Ehlers I, Hipler UC, Zuberbier T, Worm M	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Clin Exp Allergy. 2002 32(8):1231-5.	
キーワード	
エタノール、高感受性、スルフィドロイコトリエン生成	
要 旨	
<p>アルコール飲料を摂取した後の悪影響には共通する面があり、個々の代謝の差やアルコール飲料に含まれるヒスタミンが関連していると言われている。一方、純粋なエタノールはアルコール飲料で観察されるような高感受性反応を引き起こさず、その原因については良くわかっていない。アルコールその物がアルコールによる高感受性反応の原因となりうるかについて調べるために、アルコール摂取後の過敏症反応を検討した。また、その病因メカニズムを調べるため、すべての被検者にエタノールやその代謝物を用いてスキンプリックテストと末梢白血球のスルフィドロイコトリエン生成について調べた。スキンプリックテストとスルフィドロイコトリエン生成の測定は 50-100 mM のエタノールやアセトアルデヒドで実施した。</p> <p>その結果、純粋なエタノールを用いた口腔テストは 11 人の被験者中、6 人が陽性であった。さらに、全ての免疫陽性被験者だけでなく、5 人の免疫陰性被験者中 4 人が正常コントロールの人に比べスルフィドロイコトリエンの生成増加が観察された。アルコール飲料、エタノール、アセトアルデヒド、酢酸を用いたスキンプリックテストは全ての被験者でネガティブであった。</p> <p>以上の結果からアルコールに対する過剰反応はエタノールその物が共通の原因因子であることを示している。また、これらの反応は濃度依存的である。また、スキンプリックテストでは全ての被験者で、陰性であったことから IgE 非依存的な反応であることが示唆される。</p> <p>また数人の被験者でスルフィドロイコトリエンの増加が観察されたが、その原因は不明である。しかし、本実験から口腔刺激手法はエタノール高感受性診断に不可欠であることが示唆される。</p>	